

①研究成果論文リスト

- 1) 大熊武司、下村祥一、池田 武、履歴ダンパー型小規模軽量免震建築物の弾塑性風応答性状ならびにその解析に関する研究、日本建築学会構造系論文集 No. 533、pp. 45、2000年7月
- 2) T. OHKUMA and S. SHIMOMURA, A simple estimation method for elasto-plastic responses of a tall building in an along-wind direction, Proc. of the 8th ASCE Joint Specialty Conference on Probabilistic Mechanics and Structural Reliability, PMC2000-80, Jul., 2000.
- 3) 安井八紀、大熊武司、吉江慶祐、片桐純治、廣川雅一、モンテカルロ法を用いた台風シミュレーションに関する研究、第16回風工学シンポジウム2000
- 4) 大熊武司、丸川比佐夫、安井八紀、レビュー:モンテカルロ法を利用した台風シミュレーションによる強風の評価、災害の研究 第32巻
- 5) S. Shimomura, T. Ohkuma and N. Arai, A Study on Elasto-Plastic Response of a Wooden House for Wind Action, Extended Abstracts of the Fifth Asia-Pacific Conference Wind Eng. , pp. 513-516, Oct., 2001.
- 6) H. Yasui, T. Ohkuma, H. Marukawa and J. Katagiri, Evaluation for Strong Winds by Typhoon Simulation Based on Monte Carlo Method, Extended Abstracts of the Fifth Asia-Pacific Conference on Wind Engineering, pp. 345-348, Oct., 2001
- 7) 片桐純治、大熊武司、丸川比佐夫、鶴見俊雄、風直角方向揺れ連成振動時の振動依存風力特性 — 辺長比2の高層建築物に作用する振動依存風力特性に関する研究一、日本建築学会構造系論文集 NO. 543、P. 15、2001年5月
- 8) 安井八紀、大熊武司、丸川比佐夫、軽部英生、下村祥一、中低層免震建物の風洞実験模型の開発、第17回風工学シンポジウム2002
- 9) 下村祥一、大熊武司、松澤 潔、二方向入力による小規模軽量免震建築物の風応答性状に関する研究 — 風方向と風直角方向入力の場合一、第17回風工学シンポジウム2002
- 10) 黒田真樹、田村哲郎、大熊武司、正方形角柱の共振風速近傍における弾性・弾塑性挙動に関する数値解析、第17回風工学シンポジウム2002
- 11) 岡田 創、大熊武司、岡田 恒、丸川比佐夫、実大建物による屋根瓦に作用する風力に関する研究、第17回風工学シンポジウム2002
- 12) 片桐純治、岡田 創、丸川比佐夫、大熊武司、低層建築物壁面に作用する風圧性状に関する観測、第17回風工学シンポジウム2002
- 13) 片桐純治、大熊武司、丸川比佐夫、揺れ空力不安定振動の発生風速の予測式の提案、日本建築学会技術報告集 第15号、pp. 65、2002年6月
- 14) 片桐純治、大熊武司、丸川比佐夫、振動依存風力を考慮した風直角方向揺れ連成風応答解析方法に関する研究、日本建築学会構造系論文集 No. 555、pp. 45、2002年5月
- 15) 大熊武司、片桐純治、丸川比佐夫、下村祥一、矩形平面を有する高層建築物の振動依存風力特性および風直角方向揺れ連成空力不安定振動性状における辺長比の影響、日本建築学会構造系論文集 No. 560、pp. 43、2002年10月
- 16) Hachinori Yasui, Takeshi Ohkuma, Junji Katagiri and Hisao Marukawa, Study on evaluation time in typhoon simulation based on Monte Carlo method, Journal of Wind Eng. and Industrial Aerodynamics 90(2002)、pp. 1529
- 17) Shoichi Shimomura, Takeshi Ohkuma, A study on Elasto-plastic Response of A Wooden House for Wind Action, Journal of Wind Eng. and Industrial Aerodynamics 90(2002)、pp. 1843

- 18) Junji Katagiri, Takeshi Ohkuma and Hisao Marukawa, Analytical method for coupled across-wind and torsional wind responses with motion-induced wind forces, Journal of Wind Eng. and Industrial Aerodynamics 90(2002)、pp.1795
- 19) Toshinaga Okamura, Takeshi Ohkuma, Eijiro Hongo and Hajime Okada, Wind response analysis of a transmission tower in a mountainous area, Journal of Wind Eng. and Industrial Aerodynamics 91(2003)、pp. 53
- 20) 大熊武司、荏本孝久、小川秀雄、山本俊雄、佐藤憲一、北岡正敏、窪谷浩人、GIS を活用した強震計連動型即時簡易被害予測システムに関する研究、神奈川大学工学研究所 所報
- 21) 中村秀治、石川智巳、大熊武司、田村幸雄、田中伸和、北嶋知樹、風向別基本風速マップ作成の試み、日本風工学会論文集 第 97 号、pp.121、2003 年 10 月
- 22) 吉江慶祐、北村春幸、大熊武司、変動風力による弾塑性構造物への総エネルギー入力に関する研究、日本建築学会構造系論文集 No.572、pp.31、2003 年 10 月
- 23) 下村祥一、大熊武司、木造軸組工法建築物の耐風性能評価用復元力特性に関する研究、第 18 回風工学シンポジウム、pp.371、2004 年
- 24) 大熊武司、本郷栄二郎、漆原秀雄、片桐純治、鶴見俊雄、岡村俊良、鉄塔腹材の後流渦励振に関する研究、第 18 回風工学シンポジウム、pp.317、2004 年
- 25) Takeshi Ohkuma, Hachinori Yasui and Hisao Marukawa, Development of wind tunnel test model of mid-rise base-isolated building, Wind and Structures Vol.7、No.3、pp.203、2004 年
- 26) 岡田 創、大熊武司、片桐純治、実大建物による屋根瓦に作用する風力に関する研究 その 2 浮上りの生じた瓦に作用する風圧力の性状、第 18 回風工学シンポジウム、pp.323、2004 年
- 27) 大熊武司、岡田 創、平塚鉄也、片桐純治、大石 守、外付け電動ブラインドに作用する風力及び風応答性状に関する屋外計測、第 18 回風工学シンポジウム、pp.251、2004 年
- 28) 大熊武司、片桐純治、丸川比佐夫、安井八紀、強風時における五重塔の風応答性状に関する研究、日本建築学会構造系論文集 No.582、pp.109、2004 年 8 月
- 29) 岡田 創、大熊武司、片桐純治、浮上りが生じていない瓦に作用する風圧力の性状 実大建物による屋根瓦に作用する風力に関する研究 その 1、日本建築学会構造系論文集 第 588 号、pp.49、2004 年 2 月
- 30) 吉江慶祐、北村春幸、大熊武司、エネルギーの釣合に基づく変動風力を受ける弾塑性構造物の応答予測手法、日本建築学会構造系論文集 No.589、pp.59、2005 年 3 月
- 31) M. Iwata, T. Kato and A. Wada, Buckling-restrained braces as hysteretic dampers, STESSA 2000, Montreal, 2000. 8.
- 32) 加藤貴志、岩田 衛、和田 章、損傷制御構造における座屈拘束ブレースの性能評価、日本建築学会構造系論文集 No.552、pp.101、2002 年 2 月
- 33) 山田 哲、黒川礼子、會澤貴浩、岩田 衛、廃棄物重量と LCCO 2 量に着目した鉄骨造建物における環境負荷の評価、日本建築学会構造系論文集 No.554、pp.131、2002 年 4 月
- 34) 藤田正則、関戸宏幸、岩田 衛、損傷制御構造とした軸降伏型履歴ダンパーを有する平板システムトラスに関する研究、日本建築学会構造系論文集 No.559、pp.165、2002 年 9 月
- 35) 岩田 衛、藤田正則、前田親範、情報技術を利用した建築鋼構造のリユースマネジメントモデルの提案、日本建築学会総合論文誌 No.1、2003 年 2 月
- 36) 村井正敏、小林史興、野田隆博、岩田 衛、鋼モルタル板を用いた座屈拘束ブレースの実験的研究、日本建築学会構造系論文集 No.569、pp.105、2003 年 7 月
- 37) 鈴木達人、竹内 徹、岩田 衛、円弧板を用いた鋼管トラス接合部の力学性状に関する研究 ーその 1 T 型継手の終局耐力評価ー、日本建築学会構造系論文集 No.574、pp.121、2003 年 12 月

- 38) 藤田正則、前崎忠司、関戸宏幸、岩田 衛、損傷制御構造とした軸降伏型履歴ダンパーを有する屋根構造の設計と施工、日本建築学会技術報告集 第18号、pp. 85、2003年12月
- 39) 藤田正則、関戸宏幸、岩田 衛、冗長性構造とした高張力鋼座屈拘束部材を有する平板システムトラスに関する研究、日本建築学会構造系論文集 No. 583、pp. 85、2004年9月
- 40) 小林史興、村井正敏、和泉田洋次、岩田 衛、鋼モルタル板を用いた座屈拘束ブレースの実験的研究 —その2 製作簡易化と芯材幅厚比の変化—、日本建築学会構造系論文集 No. 586、pp. 187、2004年12月
- 41) 栗山利男、荻本孝久、望月利男、地盤不整形性を考慮したマイクロゾーニングに関する研究 —西宮市を例として—、日本建築学会構造系論文集 No. 546、pp. 71、2001年8月
- 42) 荻本孝久、山本俊雄、栗山利男、岩楯高広、ボーリング坑を利用した微動および強震動の地表/地中同時観測結果、第26回地震工学研究発表会講演論文集、pp. 237-240、2001年8月
- 43) T. Enomoto, T. Yamamoto and S. Yamamoto, Study on the Time-Depending Fluctuations and Stability of H/V Spectra Focussed on the Short Period Microtremors Based on the Long-Time Observation
- 44) T. Enomoto, T. Ochiai, T. Yamamoto, N. Abeki and T. Maeda, Study on the Estimation of 3-D Shallow Soil Structure in Sagami Plain Using Spatially Dense Microtremor Measurements
- 45) 山本俊雄、荻本孝久、服部秀入、岩楯敏広、短周期微動を用いたH/Vスペクトルの長期時間変動と安定性、第11回日本地震工学シンポジウム
- 46) M. Schmitz, T. Enomoto, J. P. Ampuero, V. Rocabado, P. Kantak, J. Sanchez, H. Rendon, J. Gonzalez, N. Abeki, J. -P. Villotte, M. Navarro and J. Delgado, SEISMIC MICROZONING STUDY IN CHACAO DISTRICT, CARACAS, VENEZUELA, 12th European Conference on Earthquake Engineering Paper Reference 808 (quote when citlng this paper)
- 47) T. Enomoto, T. Yamamoto and T. Kuriyama, Dynamic characteristics of seismically isolated RC building using strong motions recorded by Vertical array observation system, Structural Dynamics, EURODYN2002
- 48) F. J. Sanchez, M. Navarro, J. M. Garcia, T. Enomoto and F. Vidal, Evaluation of seismic effects on building structures using microtremor measurements and simulation response, Structural Dynamics, EURODYN2002
- 49) M. Navarro, F. J. Sanchez, M. Feriche, F. Vidal, T. Enomoto, T. Iwatate, I. Matsuda and T. Maeda, Statistical estimation for dynamic characteristics of existing buildings in Granada, Spain, using microtremors, Structural Dynamics, EURODYN2002
- 50) T. Enomoto, K. Kuriyama, M. Navarro and T. Iwatate, SITE-EFFECTS EVALUATION BY H/V SPECTRA COMPARING MICROTREMOR WITH STRONG MOTION RECORDS OBSERVED AT GROUND SURFACE AND BASEMENT USING BOREHOLE, pp. 596, 12th European Conference on Earthquake Engineering
- 51) 落合 努、山本俊雄、服部秀人、荻本孝久、高密度微動観測を用いた相模平野の表層地盤振動特性のゾーニングに関する研究、地域安全学会論文集 No. 5、pp. 1、2003年11月
- 52) 斉藤幸司、大関千恵、荻本孝久、山本俊雄、阪神・淡路大震災の復旧・復興過程に関する時系列分析に関する研究、2004地域安全学会 No. 14、pp. 91、2004年5月
- 53) 大関千恵、荻本孝久、伊村則子、近藤伸也、大都市の企業・ボランティア団体と自主防衛組織の防災への取組み、2004地域安全学会 No. 14、pp. 39、2004年5月
- 54) 山本俊雄、松澤共良、荻本孝久、地盤関連情報のデータベース化とその活用に関する研究、2004地域安全学会 No. 14、pp. 57、2004年5月
- 55) 大関千恵、荻本孝久、山本俊雄、大都市大震災の復旧・復興を考慮した防災計画に関する研究、2004地域安全学会 No. 15、pp. 53、2004年11月

- 56) 荻本孝久、大関千恵、山本俊雄、自然災害種別を考慮した地域防災ポテンシャル評価指標に関する研究、2004 地域安全学会 No.15、pp. 57、2004 年 11 月
- 57) 山本俊雄、松澤共良、荻本孝久、高密度常時微動観測による足柄平野南部の表層地盤振動特性の検討、2004 地域安全学会 No.15、pp.143、2004 年 11 月
- 58) 荻本孝久、山本俊雄、菊地敏男、杉本 実、岩楯徹広、松田磐余、I T 技術を活用した地盤情報管理のシステム化と活用技術に関する研究、神奈川大学工学研究所所報 第 27 号、pp. 95、2004 年
- 59) T. Yamamoto, T. Enomoto, T. Ochiai, N. Abeki and H. Hattori, STUDY ON THE ESTIMATION OF 3-D SHALLOW SOIL STRUCTURE IN SAGAMI PLAIN USING SPATIALLY DENSE MICROTREMOR MEASUREMENTS, 13th World Conference on Earthquake Engineering Vancouver, p. 2039, Aug. 2004
- 60) T. Enomoto, J. Lermo, M. Navarro, N. Abeki and K. Masaki, SITE EFFECT CHARACTERISTICS OF DAMAGE CONCENTRATED AREA DUE TO THE 2003 COLIMA EARTHQUAKE (M7.6) , MEXICO, 13th World Conference on Earthquake Engineering Vancouver, p. 2039, Aug. 2004
- 61) 松浦恒久、酒井和三、若本武三、岩上寛次、島崎和司、大型免震構造物における乾燥収縮の計測、ハザマ技術研究所所報
- 62) 島崎和司、乾燥収縮により初期変形を受けた免震建物(LRB)の耐震性能の評価、日本建築学会構造系論文集 No. 554、pp. 45、2002 年 4 月
- 63) 島崎和司、損傷低減を目的としたエネルギー吸収型 X 型配筋 RC 梁の開発、日本建築学会構造系論文集 No. 562、pp. 83、2002 年 12 月
- 64) 島崎和司、応答スペクトルを用いた鉄筋コンクリート構造物の地震時応答変位の予測、日本建築学会構造系論文集 No. 562、pp. 107、2002 年 12 月
- 65) Kazushi Shimazaki, EXPERIMENTAL STUDY OF A DIAGONALLY REINFORCED BEAM WITH WELL REPAIRABILITY, pp. 258, 12th European Conference on Earthquake Engineering
- 66) 佐藤宏貴、島崎和司、黒瀬行信、熊谷仁志、戸沢正美、低降伏点鋼を用いた境界梁ダンパーの実験的研究、日本建築学会構造工学論文集 Vol. 49B、pp. 503、2003 年 3 月
- 67) Hiroki Satoh and Kazushi Shimazaki, EXPERIMENTAL RESEARCH ON LOAD RESISTANCE PERFORMANCE OF CFT COLUMN/FLAT PLATE CONNECTION, 13th World Conference on Earthquake Engineering Vancouver, pp. 946, Aug. 2004
- 68) Kazushi Shimazaki, DE-BONDED DIAGONALLY REINFORCED BEAM FOR GOOD REPAIRABILITY, 13th World Conference on Earthquake Engineering Vancouver, pp. 3173, Aug. 2004